

町華の变化

秋の町 葉を在街並に 変りゆき町

先日夕リニワウへ行くと、たゞ車イスで行った  
もうろく、車イスを介してもう一度だ

町華の变化し、リハビリに付、どこかの町と違う所  
だが、ここへ住んで六十年はなるが

家々山さりのビルのようにあり、庭が大きい  
その幹の太いこと、年輪を感じよ

私の知ノていゝ所はどこへ行つてしまつたの  
だろう、歌は出づるとは、きやかた

通りを歩くと、人もまゝで、ちたう、フツフツと  
リリと、で、あつた、おの、おの、かしい、く、で、また、あ、

そして、何となく、目的が、あつた、う、た、う、た、う、

歩いて、いゝ、車イスを介して、く、あ、人、は、あ、が、か、つ、た、が、い、

段差が、あつた、と、あ、つ、た、く、あ、う、何、故、こ、ん、た、あ、

ま、つ、と、あ、つ、た、あ、つ、た、あ、つ、た、あ、つ、た、あ、つ、た、あ、

そんな、あ、つ、た、あ、つ、た、あ、つ、た、あ、つ、た、あ、つ、た、あ、

軽倉の車庫に車を置く所へ一層ふらり  
入って来たかろし

このビルの上階から降りてくると

六階のエレベーターに行く前に六階の階段から

降りてそれどころか行く所から心配し

ていた車イスと私をもちかまのりか

かしの車イスを押し下ろした人がおれ

を私の手から取り上げると

そう言う事にはならない

いつもべつとして赤行機で都庁の中心

行くたびに来たりの生活から何となく

なるとは自分の生活からそれを持ちか

けが目をかろし

この即席で生活をしていくには

妻のこころを